浜小学校校長室だより

らせん階段

2020/6/3（水）

校長　中原　寿男

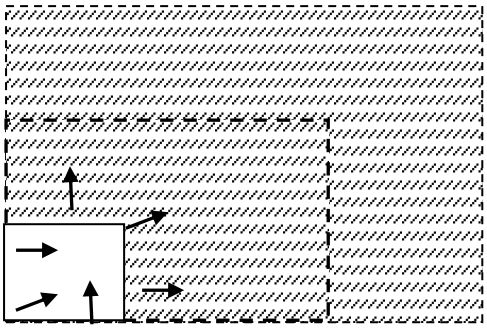
NO.36

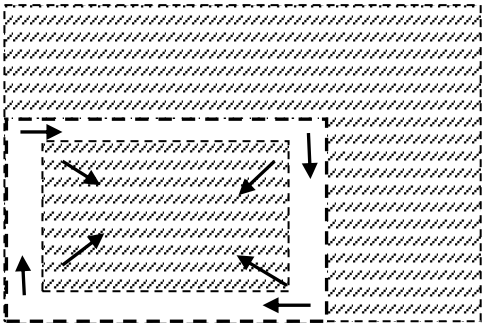
励ましは“ポパイのほうれん草”

◆ある日のことです。私は、私鉄のある駅の階段を上ろうとしていました。すると、上から若いお母さんと二歳ぐらいの女の子が、手をつないでおりてきます。…一見、ほほえましい親子のように見えました。ところが、その女の子がお母さんにやたらに叱られているのです。その厳しさにびっくりして見ていると、どうやら女の子の階段のおり方が叱られているのです。小さい子ですから、片足を一段下ろすと、もう片方の足を同じ段にのっけてしまいます。それが叱られているのです。
「あんたはどうしてこんなことができないの。その足はそこじゃなくて、その下…」女の子は叱られるたびに萎縮してしまって、よけいに足が出なくなってしまいます。…お母さんはそのうちに、足を持ってじゃけんにひっぱり始めました。しかし、うまくいくはずはありません。とうとうお母さんは「もう、あんたなんか置いて行くわよ。いつまでもそうしてなさい。○○ちゃんだってできるのよ」と言って、一人で階段を下り始めたのです。…おびえたように階段の途中に立ちつくしている小さな女の子の姿が、いつまでも心に残りました。◆人間はもともと「困難に挑む存在」です。たとえつらくても、困難なことに向かって頑張ることを、人間は決してきらいではありません。…歩くことだって、言葉をしゃべることだって、竹馬に乗ったり逆立ちしたりコマを回したりすることだって、人間のやることは、黙っていても自然とできるようになることなんてほとんどありません。…そんな困難に挑もうとする時、それを支えるものは何でしょうか。…その最良のものは、「励まし」です。私たち大人だって、励まされるとうれしいものです。その上に、困難に耐えてやり遂げた時、「よくやったね」と、返ってくるものがあれば最高です。◆そして子どもは、本来「伸びたい」「大きくなりたい」「できるようになりたい」という願いの旺盛な、極めて能動的な存在です。「がんばってごらん」と心に火を点してやり、「よくやったね」と反射してやれば、子どもはどんどん大きなことに挑もうとするものです。◆階段のお母さんも女の子に「そうれ、お母さんみたいにおりてごらん・・・。ようしできた！よかったね。さ、次の段もがんばってごらん」と言ってやれば、女の子はもっと生きいきとがんばろうとしたことでしょう。二歳の子にだって、言葉の意味はわからなくても「励まし」の姿勢は立派に伝わるものです。◆5 年生のA子ちゃんは校内マラソン大会で、50位以内という目標を立てました。ところが前日にになって自信がなくなったA子ちゃんは目標を100位以内におろしてしまいました。その夜、話を聞いたお父さんはこう言って励ましました。・・・「目標はさげてもいいけど、走ることに力をぬいちゃいけないよ。明日は力いっぱい走ってきなさい。何位以内というより、“自分は力いっぱい走った”という満足感があれば、それがおまえの立派な優勝だよ。」・・・A子ちゃんは、その励ましを胸に走りました。結果は20位でした。うれしくて、お父さんお母さんの勤め先に電話をしました。「私がんばったよ」と。・・・

◆「形」から入ることも大切

▽目の前に耕されていない畑があります。…子どもたちはどうやって耕すでしょうか？…おそらく足元からどんどん広げていくでしょうね。…けれど…まず外枠を決め、そこを耕してから中へ。…そんなやり方もあります。…





▽どちらにしても結局同じ仕事の量です。けれど、まわりを耕しておくと、「後、どれくらい…」って感じで目標をはっきりとらえやすいし、もし、「どこまで」って制限がない場合、まわりを耕すと必ず中まで耕さねばならないという気になりますから、途中で「や～めた」となりにくい…。

意思が強くない僕は、こんな風に、**「枠・形」を決めてしまうこと＝やらなければならいないという責任を背負うこと**で、「さぼりたいなぁ」とか「やめてしまおうかなぁ」という甘い自分、逃げ出しそうな自分をやっつけること…よくやります。

…「形から入る」…そんな風にもとらえることができるのでは、と。…学習でも何でも。…

▽「ボロは着てても心は錦　どんな花よりきれいだぜ…」かなり古い歌詞です。ダイレクトにとれば、暮らしは貧しくとも、心はいじけず、卑しくならず…見てくれはわるいかもしれないけれど、心は美しい、ってことですね。…人は見かけによらない…見た目で判断するのはダメだ。…っていう風にとらえることもできます。とても、大切なことです。

▽けれど、今の子どもたちを見ていると…中学生を相手にしているとき…名札がなかったり、服装が乱れている生徒に「服装の乱れは心の乱れ」…「身だしなみを整えよう」「かたちから入ることも大切なんだ」と、よく言いました。…

小学生は、そんな風な乱れはあまりありませんが、やっぱり、時間を守れていなかったり、靴のかかとを踏んでいたり、名札をつけていない人を見ることがあります。…また「姿勢」にも言えます。

授業を受ける姿勢・・・「立腰」。しっかり背筋を伸ばして顔を真っ直ぐ上げている人は、やっぱり集中している目つきになっています。逆に、机に伏せたような、横すわりしているような姿勢の人は、ノートを書いていても、ただ書いているだけって感じです。

また、身だしなみや授業だけではなく、生活全般にも言えることがたくさんあります…。形から入ること…有言実行で自分を逃げられないようにして追い込む。・・・そんな意味も込めて。・・・

時を守り、場を清め、礼を正す・・・①

▽さて、「形から入る」ことの大切さを書きましたが、小学生のみなさんが、これから中学校、高校…と、進路を切り開き、世界を広げていく中で、「人との関わり」がとても重要となります。…「人との関わり」…。どうでしょうか…みなさんの中でも、「一緒にいてホッとする、安心できる、楽しい…」そんな人、まわりにいますよね。でも、逆に「ホッとできない、安心できない、居心地が悪い」…そんな人も。…どこが違うのでしょうか？　（続く）

第 1 は 挨拶ができる
第 2 は 約束を守る
第 3 は 古いものを大事に使う
第 4 は 人の話が聴ける
第 5 は 筋を通す
第 6 は 他人の身になって考える
第 7 は 先を読んで行動する
第 8 は 気持ちや考えを表現できる
第 9 は 潔さがある
第 10 は 感謝と畏(おそ)れの感覚がある

「挨拶ができる」「約束を守る」「人の話が聴ける」は、今でも学校教育で先生たちが一番重視する三種の神器と言えるでしょう。あるいは親が子に教える家庭教育の大原則とも重なります。
各項目について、少し解説してみましょう。

(1)挨拶ができる

人間関係の基本ですね。人間が社会を構成して生きる以上、グローバルにも第一の原則でしょう。

(2)約束を守る

人間は社会の中で(たとえ家族同士でも友達間でも)様々な信用(クレジット)の取引をして暮らしています。待ち合わせに時間通り来るかどうかというように、お金が伴わない場合でも、信用をやり取りしているんです。

(3)古いものを大事に使う

アンティークやヴィンテージのスポーツカーが好きというような意味ではありません。祖父が使っていた古い腕時計をしている人はなんとなく信用できますよね。新品を次々と消費する人より、大事に使うと価値が増殖することを知っているという意味です。

(4)人の話が聴ける

コミュニケーションのリテラシーが高いこと。コミュニケーション(Communication)の語源は「communis」というラテン語ですが、「伝達」という意味ではなく、「共有の」という意味なんです。
つまり、相手の話が聴けること、質問できること、自分と相手の共通点を見つけられることが大事なんですね。自分の考えや意思を一方的に伝えるだけでは、独り言の応酬になってしまって、相手と交流していることにはなりませんから。

(5)筋を通す

ロジカルシンキングのリテラシーが高いこと。話が論理的でないと、たとえ感情的に共感されたとしても信頼はされないでしょう。グローバルな関係を作りたければこれが欠かせません。
また、「あの人の生き方には一本筋が通っている」というように、テーマのある人生、ライフワークを感じさせる生き方をしている人は尊敬される。
特に人生の後半には、この美意識や哲学性が大事になります。

(6)他人の身になって考える

ロールプレイ（役割演技）のリテラシーが高いこと。様々な社会的役割をその人の身になって感じられるかということ。営業マンはお客さんのロールプレイができなければ商品を売れないでしょうし、編集者は読者のロールプレイをして、今だったら何を読みたいかを想像します。
世界中を放浪したり、たくさんのバイトを渡り歩いたり、あるいは大きな病気やハンディを克服して冒険にチャレンジしたり……様々な経験を積んだ「経験値」の高い人がリスペクトされるのは、その経験を通じて多様に他者をロールプレイできる視点を獲得しているからでしょう。
読書も、多様な視点のロールプレイ効果がありますから、この武器を磨きます。
何事も、経験量の多い人にはかなわないということ。

（7）先を読んで行動する

シミュレーションのリテラシーが高いこと。これが起こったら次はこんなことになるな、と推理を働かせられる人も信用されます。
天気図の高気圧と低気圧の配置から「明日は雨になるでしょう」と予測する天気予報士が典型ですが、証券マンも「中国でこういうことが起こったから、日本にはこういう影響が出る」と推理して、だったらこの会社の株が上がるだろうというように、お客様にすすめることができなければいけない。

（8）気持ちや考えを表現できる

プレゼンテーションのリテラシーが高いこと。
学校の授業には「体育」「美術」「音楽」「技術・家庭」「情報」のような実技教科がありますが、これらはそれぞれの知識を習うというよりも、実は表現技術を学んでいると考えた方がよさそうです。
自分の考えや思いを、体で（ダンスなどは典型的ですね）、スケッチや造形で、音やリズムで、手先で、コンピュータで、それぞれ自己表現できる技術を磨いているわけです。
自分の考えをさっとイラスト図や漫画にできるビジネスパーソンは、仕事仲間と即ビジョンを共有できるので便利ですよね。
どの表現技術も、50 億人がスマホでつながるユーチューブ時代には、あなたがアッという間に世界に評価されてメジャーになれる（信用が一瞬にして極大化する）可能性が高まります。PPAP の世界的大ヒットがよい例だと思います。
もう、お気づきでしょう。
（4）（5 ）（6）（7）（8）の 5 つは、私が 20 年前から提唱している「情報編集力」の 5 つのリテラシーです。

（9）潔さがある

超の付く高齢社会では、高齢者同士の評価として、また若者が先輩上司や年配者を見る評価としても、「潔さ」の観点がクローズアップしてきます。
自立（インディペンデントになること）が怖いからと、いつまでも会社や組織にぶら下がっている人は、後進に道を譲る「潔さ」がないと評価されるでしょう。

45 歳はまさに、この判断の岐路になります。「後ろの扉を閉めないと `前の扉は開かない」という意味がわかるでしょうか?
組織で守られる立場を「辞める」というのは、人生における「潔さ」の表現。
前章をお終いにしなければ、次の章は始まらないのです。

（10）感謝と畏れの感覚がある

成熟社会が深まってくると、人間の宗教性が問題にされるようになります。

宗教性とは何か?……ひと言でいえば「感謝」と「畏れ」の感覚があるということ。特定の宗教に帰依したり信徒にならなくても、この感覚は得られます。
何かいいことが起こったときに、それを自分の実力とだけ考えないこと。51%実力かもしれないが、49%は他者や環境や自然の力によってもたらされたとする気持ち。